

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年9月9日（金）10時00分～11時20分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
大辻室長補佐、松田室長補佐、新井安全審査官、小西係長、横山係長、
塩唐松係員、高木技術参与
澁谷企画調査官（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

木村原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当9名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 3号機 PCV 水位トレンドについて
 - ✓ 7月19日に注水停止試験を終了し、その後PCV水位の緩やかな低下傾向が確認され、現在は注水量を増やし水位を維持している。
 - ✓ 水位低下の原因は、漏えい箇所の拡大又は大気圧変動が考えられるが特定に至ってはいない。
 - 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について
- 原子力規制庁は、上記説明について確認するとともに、以下のとおりコメントした。
 - 3号機 PCV 水位トレンドについて
 - ✓ 水位低下の原因の推定と長期的な傾向をまとめ、後日改めて報告すること。
 - 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について
 - ✓ 報告に含まれている温度計の中で実施計画を遵守するための監視に使用している温度計の構成、また直近で故障した温度計の役割及び対応要否の判断について説明すること。
 - ✓ 今後故障が発生した際には、報告の中に当該温度計の役割及び対応要否の判断を記載すること。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：

- 3号機 使用済燃料プール一次系ポンプ入口圧力低下事象における配管修理の完了について
- 3号機 PCV 水位トレンドについて

- 実施計画Ⅱ 2.50 ALPS 処理水放出設備及び関連施設における記載の適正化について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について（2022年9月提出）

以上